



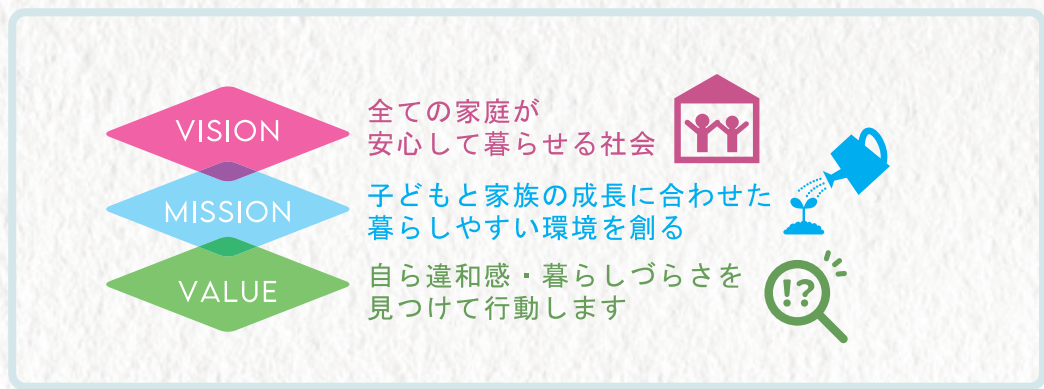
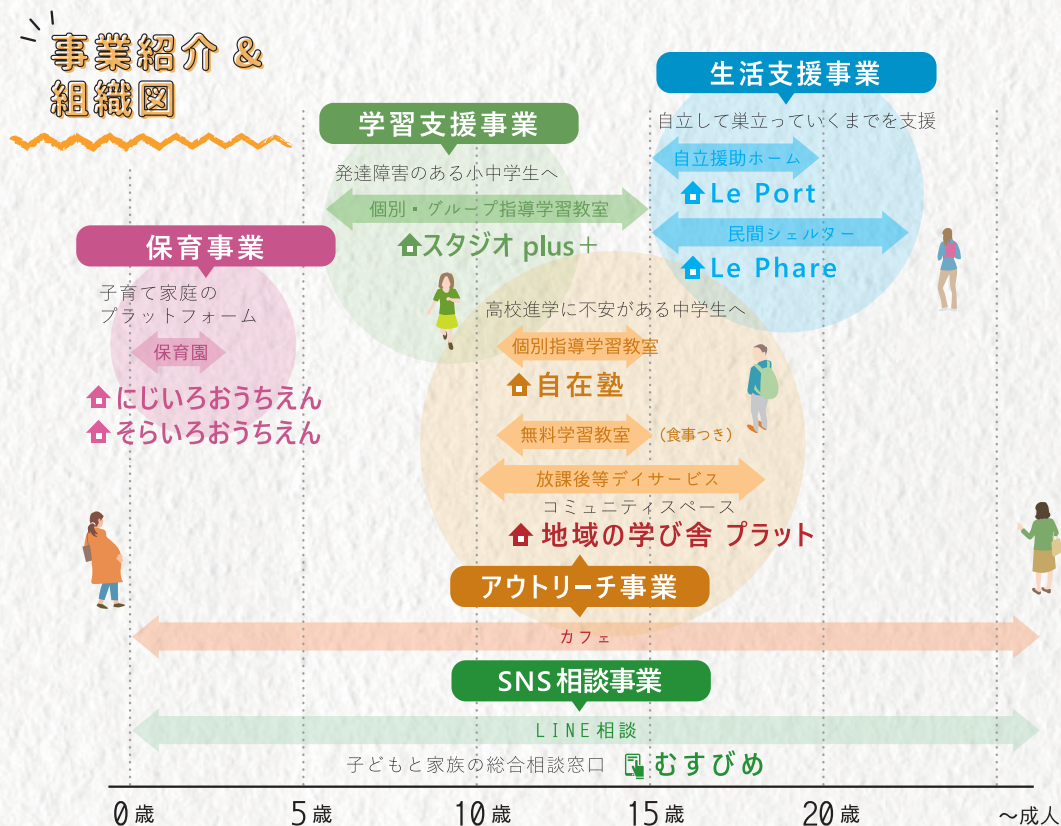
ダイバーシティ工房の 10年とこれから

すべての家庭が安心して暮らせる社会を目指して



特定非営利活動法人ダイバーシティ工房
2021年度 年次報告書

全ての家庭が安心して暮らせる社会の実現へ



代表挨拶

2022年3月21日、ダイバーシティ工房は設立から10年が経ちました。年次報告書を読んでくださっている皆様、応援してくださっている皆様、私たちの活動を支えてくださり本当にありがとうございます。そしてこの10年間、一緒に働いてくれている仲間へも感謝の気持ちで溢れています。

自在塾の平屋の校舎に通う子どもたちが4~5人だった当初から、この10年で延べ4,000人以上の子どもたち・家庭と関わるまでに組織は成長しました。創業当初は2人だった職員は現在100人を超え、6つの事業、10拠点を運営しています。

個人事業で始めた12年前から色々な家族の話聞く中で、また自分自身が生きてきた中で、あったらいいな、何で世の中になんだらう、こんな場所に相談したかった、もし自分がこの人だったらーそんなことをいつも考えてきました。世の中に欲しいもの、なくて困っているもの、暮らしの中で不便を感じるもの、そういうものに出会ったときの自分自身の感情やアイデアを大切にしています。

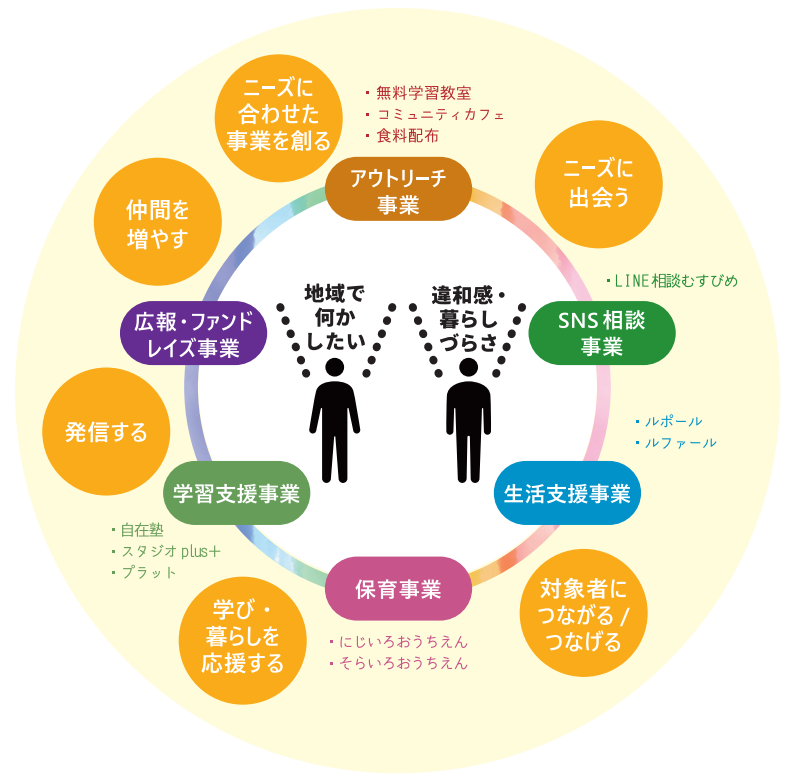
この先、発達障害や貧困など特定の領域を深めていくのではなく、暮らしの中に溶け込んでいこうなスタイルで事業展開をしていきたいと思っています。

誰もが持ち合わせているマイノリティの部分認め合い生活の一部となるような生き方、暮らし方が実現できる社会を作りたいです。



NPO 法人ダイバーシティ工房
代表 不破牧子

全ての家庭が安心して暮らせる社会を目指して、子どもと家族の成長に合わせた暮らしやすい環境を創るため、違和感・暮らしづらさを見つけて、必要な事業を創出しています。



2021年度ハイライト

コロナ禍での対応に奔走した2020年度に引き続き、改めてダイバーシティ工房らしい支援とは何かを考える一年でした。また、ダイバーシティ工房の各拠点を卒業しても安心して暮らせる社会であるように、地域他機関との連携や事業を超えた支援を実現できるよう新たな動きが生まれています。



放課後等デイサービス・スタジオ plus+

2021年度の新たな試みとして、ソーシャルスキルトレーニングのプログラムを船橋教室でスタートしました。通常の学習活動とは異なる集団活動やその中で生まれるコミュニケーションなど、社会的なスキルを育むための場となっています。

スタジオplus+では、学習ができるようになるためだけでなく、この先の暮らしにおいて子どもたちが心地よく生きていくことができるよう、本人・家庭・教室の三者で、利用目的や目標の共有を行っていくことを大事にしています。

支援の質を向上させるために、団体内でもより活発に研修や自発的な勉強会が実施された1年でもありました。学習支援面においてはもちろんのこと、子ども、家庭を地域でどのように支えていくことができるかといった視点から支援を捉える必要性も増えています。

法人として地域に根ざした活動や体制を整えていくことで、スタジオplus+からは卒業をしても、困りごとがあれば相談ができる、利用できる拠点があるなど、地域で支え合っていく仕組みを今後より一層強化していきたいと考えています。



学習教室・地域の学び舎プラット

週に2回開催している食事付きの学習教室には、小学校高学年から高校生まで合わせて37名の利用がありました。コロナ禍の影響でみんなで食事をとることは難しく、昨年度に続きお弁当配布を行った1年でしたが、大半の子どもたちが継続して通ってくれました。

プラットが立ち上がってから4年が経過し、最近では学校や地域の相談機関でプラットをご紹介いただいたり、保護者の方の口コミや友だち同士と一緒に参加してくれる子どもが増えています。

おかげさまで、地域の方にプラットの存在を認知していただけるようになってきたと感じています。また、かつて生徒として通っていた子どもが、今では学習教室のボランティアとして活躍してくれるようになってきました。「プラットが生まれて初めての習い事だった。最初は緊張したけど徐々に楽しくなった」「お弁当がもらえてうれしかった」「いろんな大人がいて楽しい」等、子どもたちからは嬉しい言葉をもらっています。



保育園・そらいろおうちえん／にじいろおうちえん

おうちえんは「子育てのパートナー」として保護者支援に力をいれています。普段の送り迎えや連絡帳でその日の出来事や様子を細やかに伝えることに加え、取り組みの一つとして保護者交流会を実施しています。普段担っている「保護者」「ママ」「パパ」という役割から一旦離れ、1人の個人として知り合える場にしようと、好きなこと、仕事のこと等をテーマに子育て以外で自分のことを話してもらおう場をつくっています。交流をきっかけに、保護者同士も困ったときに声をかけられる関係が生まれることを目指しています。

こうした活動を経て2021年度の卒園の際には保護者からたくさんのお手紙をいただきました。「娘の目線に合わせて優しく語りかける姿、何度も見習いたいと思いました。日々の出来事をたくさん共有して下さったことが嬉しく、気になることも誠実に率直に伝えて下さったことも有難かったです」「保育園を娘の「大好きな場所」にしてくださいました。慣らし保育や離乳食の進まなさにもげそうだった私への励まし、アドバイスも本当にありがとうございました」

今後も「全ての家庭が安心して暮らせる社会」を目指し、保護者に寄り添い支援をしていきます。



自立援助ホーム・ルポール

開所して2年が経ち、現在は4名の入居者がいます。今まで入居者は高校生だけでしたが、そのうち1名が高校を卒業し2022年4月に専門学校に入学しました。生活の中では誕生日を祝い合ったり、お正月には自分たちで立派なおせち料理を作り新年を祝うなどの姿も見られました。自立援助ホームでは、進学する為の入学金を児童自らが貯めることが必須となっています。専門学校へ進学した児童も、短い期間の中で働きお金を貯めることがプレッシャーになり、何度もくじけそうになる日々を過ごしました。それでも無事に入学金を貯めて進学した彼女をスタッフ一同とても誇らしく思います。

入居者から「学力不足ではなく、お金がなくて進学できるか不安」という話をよく聞きます。何も悩まずに、進学するという選択ができるような社会になってほしいと願います。



シェルター・ルフアール

この1年、4名の入居者のうち2名がルフアールを退去し、新たな生活をスタートさせました。続いて正社員での採用が決まり退去の目途が立った方も1名おり、次なるステージへ旅立とうとしています。入居者だけに限らず通所での利用者も含め、1人ひとりの成長を感じた1年でした。多くの入居希望があり、その全てには応えられない現状に申し訳なさや悔しさも感じながら、施設の必要性を痛感します。

心身を回復させ生活を立て直していくには、時間もかかります。事業としては予定通りにはいかないことも多い中で、『ダイバーシティ工房らしいシェルターとは何か』を問い続け、ルフアールのあり方を模索して作ってきた1年でした。

社会とのつながりを維持しながら、利用者たちの中にある力が回復するの信じ、伴走することが私たちの役割だと考えています。今後もより良い支援を模索しながら利用者と共に一歩ずつ歩いていきます。



LINE 相談・むすびめ

2021年度、むすびめには1738名の登録があり、4206件のご相談を受けました。2年目を迎え、継続して相談に来てくださる方、複合的な問題を抱え課題をひもどくに時間がかかる方など、長期にわたってむすびめとやりとりをしながら相談を進めるケースも増えています。利用者が住む地域の相談窓口へ連絡を取り、対面での支援につながることもできたケースもあります。

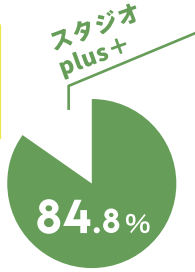
一方、これまで誰にも話せず抱えてきたこと、顔が見えないLINE相談だからこそ話せる内容を時間をかけて聞きとり、整理して、一緒に選択肢を考えていくことに加え、その人が自分で解決に向かうようにエンパワメントしていくことも対話の価値なのだと感じた1年でもありました。また外部の支援機関の方を講師に招き、就労支援、トラウマ対応、性暴力、離婚・再婚に関する子どもの支援など相談員の研修にも力を入れました。生活の中のさまざまな困りごとへ寄り添い、情報を伝え、話を整理することで、何かあってもその人らしい選択をしながら生活していくお手伝いができるように、知識・スキルの向上と、日々寄せられる相談に耳を傾けることを積み重ねていきます。



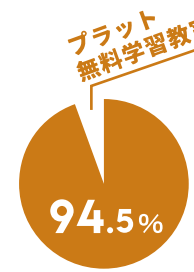
1周年報告書をご覧ください

数字で振り返る2021年度

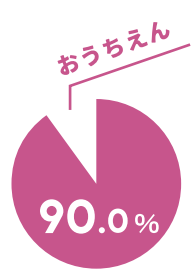
※利用者アンケート調査結果



「スタジオ plus+」に通うことで、できるようになったことや成長したことがある



「プラット」では自分の気持ちを話せる人がいる



「そらいろおうちえん」に通うことで、心配な事や不安な事が軽減された



「むすびめ」に相談することで、悩み事や不安な気持ちが軽くなった

10周年 記念インタビュー

法人設立10周年を機に、代表と創業期のメンバーで
今までの10年と今後について対話しました。

工房*の歴史を振り返れば合宿がある

(*職員が呼ぶダイバーシティ工房の通称)

ダイバーシティ工房には、宿泊して会議を行う「合宿」という文化があります。

不破：立ち上げ当初はインターン生がいて、自在塾運営はインターン生に任せられたから、私がスタジオ plus+の教室運営に力を注いだんですね。そのころも自在塾に泊まって何度も合宿してたんです。

久野：そうでしたね。そして2015年からは若洲キャンプ場とか市川少年自然の家とか、アウトドア合宿に行きましたね。

不破：2015年は工房アウトドア元年。それぞれグループに分かれて、前菜とかデザートとか担当を決めて料理をして。

立田：学生時代みたいでした。あ、この班でやるんだ。みたいな(笑)

久野：このころが最大規模で、その後縮小傾向になったんですね。スタッフが増えるにつれて、「合宿行かなきゃだめですか？」って質問されたりして(笑)

不破：それで、2017年からはプラットで合宿をやるようになったんだよね。

立田：その前の合宿で成果指標をみんなで考えるワークをやって、事務局の進行役も、参加した現場のスタッフも悩んですごく大変になってしまっただけ。

久野：そうでしたね。成果指標も評価制度も作ったり、全体に伝えるのは大変でした。

不破：評価制度を作り出したのは3年前くらい？

大野：前段階として、もう少し前にスキルチェック表の作成もありましたね。

久野：2014年に不破さんと事務局メンバーとで非常利団体向けの組織作りのマネジメントスクールに参加して、それで成果指標を作ることに合宿で話し合ったけど難しかったです。スキルチェックを作る時も、「これでは測れない」と、現場からは結構反発を受けて。良い経験でもあり大変な面もありました。今思えばそれぞれの思いや、守りたいものがあったんですね。

立田：はい。思い返すと私は現場の人としてやってきていて、当時は組織作りという視点はあまりなかった。どうしたら目の前の子どもたちに良い支援ができるかに日々集中していたし、支援の質を整えなければという焦りもあったと思う。でも最近では、みんなで組織を作っていくという意識もだいぶ浸透してきましたよね。支援と組織作りのバランスもよくなってきたように思います。

大野：みんな勉強熱心で、自分で学んだことを他の教室の人とシェアする現場発信の研修の場も生まれています。「こういう勉強会をしたい」という意見が出てくるのは、変わらずにスタッフの中にある良さだと思います。

紆余曲折の組織作りと、コロナ以後

職員数も増え、組織作りも試行錯誤が続きました。

不破：2016年から2019年くらい、採用説明会は良い人に工房を選んでも欲しいと思って大企業っぽい内容だった。どんどん良くするし、広げます！と。だけど今はもっとありのままを見せている感じがな。入った人たちはどこか大企業感覚で、「これはどうなっているんですか？教えてもらっていません」という感じで、こちらも言われたから整えて作らなきゃとなって。もうそういうのやめたいな、って思ったのは2020年くらいだったかな。

久野：はっきり言ったのは、組織作りプロジェクトが始まった2019年からですね。

立田：確かに「これがないよね」とか「なんでこうなんですか？」とか聞かれた際に、全部答えようとしてツボにはまっちゃうことありますね。

不破：みんなそういうところあると思う。私もこれって違うんじゃないかな？と思いながらやっていて、葛藤があったんだ。その違和感を組織作りで参入したスタッフに話したら賛同してくれて。やっぱりみんなで作っていくものなんだと思えた。事務局と現場とかそういうことではなく、ないものは作っていくし、こちらに求めるのではなく一緒に考えようね。と言い始めたのは2019年とか2020年くらいだったかな。沖縄に行くというのも、そんな時期、2018年くらいから思ってたんだよね。でも無理だな、ってすぐに諦めたの。

久野：おうちえん開園もあったからですかね。

不破：開園もあったし、今は無理だよなって夫に言われて。「ああ、無理か」ってその時は思ったんだ。でも次の10年後を考えたとき、もう少し違うエリア、違うフェーズに行きたい、という気持ちになった。それで2019年夏にもう一度沖縄に行って、家族のことも考えて、やっぱりこのタイミングは逃せない、行こう！と思った。地域密着だから近くで暮らすべきというマインドを自分も外したかったし、スタッフもその囚われから解放したかった。代表でも遠隔で仕事ができる、というメッセージをみんなに伝えられたら、っていう思いもあったんだよね。

久野：工房で働くために引っ越してきた人は一定数いて、いずれ地元に戻りたいと思っていたり、退職して帰った人もいたりしますね。不破さんが移住したことで、遠隔でもやれることもあるということもみんなが思ったのは大きかったですね。

ダイバーシティ工房、これからの10年

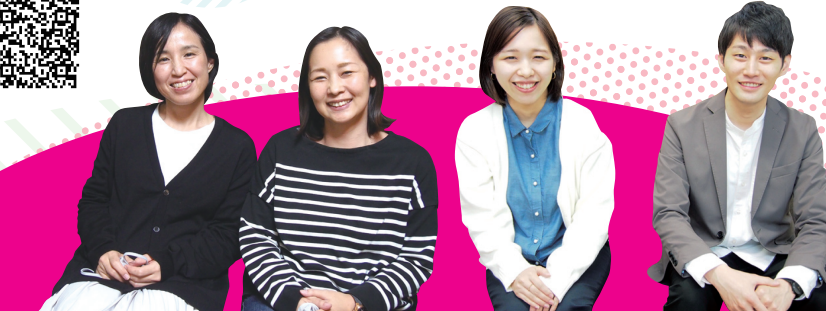
2022年3月の経営会議では、工房10年後のイメージをキーワードにするワークを行いました。

立田：「自由」というキーワードが出ましたが、これはどこでも自由に住めるしやりたいことをやれるっていう意味だと思いました。私は「安心して暮らせる」というのを書きました。ただ普通に暮らしたいだけなのに、それができない人がいることをルファールで働いて実感したんです。工房って何かすごいことではなく、ただ普通に安心して暮らせるということとずっと大事にしている、ビジョンにもある。それに自由が加わると良いなと思います。

大野：「色んな人が集まってワイワイ」というキーワードも出ましたね。プラットみたいな場所のイメージで、色んな年代の人が目的があってもなくても集まれる居場所をつくっていきたくて思っています。

不破：私自身は実はあの会議の中で「自由」って出さなかったのね。みんなから出てきた「自由」って言葉を見て、そうか、今は自由じゃないんだな、と思った。「ワイワイ」とか「自由であり続ける」という話をする中で、到達するのはまだ先、という感覚がみんなの中にあるのを感じたんだよね。でも10年後はだいぶ先じゃない？私はそれより近い2年後とかに今回みんなから出てきた「自由」とか「自然の中で」とか「コラボレーション」とか実現すると良いな、と思っています。

代表の不破が会議で出した10年後のイメージのキーワードは「国内多拠点」でした。その言葉に込められた、法人の今後の展開とは？この対談の後半は、HPでお読みいただけます。



不破 牧子
ダイバーシティ工房
代表

2012年より法人代表として地域密着の事業を複数展開。2020年に家族とともに沖縄へ移住。現在は遠隔で新規事業の立ち上げと職員の育成を行う。沖縄での事業展開も画策中。



立田 順子
シェルター Le Phare
副ホーム長・
自立援助ホーム職員

保育所・児童自立支援施設・児童相談所・療育施設での勤務を経て、2013年に入職。スタジオ plus+ 教室長を経て、2020年より自立援助ホーム・シェルターの立ち上げに携わる。



大野 亮
地域の学び舎プラット
運営責任者
法人の組織作り担当

初代インターン生。2013年にインターンを卒業後、企業勤務を経て、2017年再参画。学習支援事業部にて、直接支援と教室運営の管理を行う。また、法人の組織作りを担う。



久野 恵未
ダイバーシティ工房
事務局次長

法人創業期の元インターン生。2013年にインターン卒業後、地元に戻り金融機関で勤務するかたわら、プロボノとして法人の広報活動にかかわる。2014年再参画。事務局スタッフとして、採用・労務を担当することを経て、人事・採用の責任者となる。

ダイバーシティ工房 10年のあゆみ



自在塾の教室の様子。木造平屋の中で講師1対子ども6の授業体制でした。



創業期。インターン生やプロボノの方と議論を交わして事業をつくりあげていきました。



小学校高学年から通い始めたプラットには、ちょっとした話から将来の夢まで何を話しても子ども扱いせず真剣に聞いてくれる大人がいつもいました。高校生になり、今僕はプラットに来る子たちの話を聞く側にもなりました。学校のこと、進路、恋愛など、毎週顔を合わせるうちに相談を受け、自分はこう思うけどな、と伝えたりするとかつて自分もそんな風い話を聞いてもらったことをふと思ひ出します。この学習教室では、学力以上のものと出会えました。子どもたちの居場所として、僕がそうであったようにここが続くことによつて救われる人がいるはずです。
(プラット学習教室卒業生)



インターン生を中心にクラウドファンディングを実施。中高生向け生活支援プログラム(ソーシャルスキルトレーニング)の実施が実現しました。

優しく温かく迎え入れてくれる先生方。勉強だけでなく、休憩中には趣味の話も楽しめる、安心して過ごせる場所。色々上手くいかない事があっても、スタジオプラスでは自分を受け入れてもらえたという経験で、自己肯定感を持ちながら大きく成長させてもらえました。スタジオプラスにめぐりあえて本当によかったと、心から思います。
(スタジオプラス卒業生保護者)



発達に特性がある子どもたちを対象に「スタジオ plus+」がオープン。講師と子どものマンツーマンの授業が始まりました。



プラット無料学習教室は、学生から社会人まで、多くの大人たちに活動を支えられてきました。学習教室を卒業した高校生がボランティアに来てくれることもあります。



「プラット」では夏祭りを開催。コロナ禍で中止になるまで、毎年100名を超える地域の子ども・大人たちが来てくれました。



プラットコミュニティカフェでは地域の専門家たちと一緒に親子を支えるカフェなどを開いています。

一人っ子なので家の中では人との関わりがなく、自分の家にいるときは引きこもっていて、自分では何もできませんでした。ルポールに来てから生活に必要な家電を使えるようになり、今は自分の身の回りのことできるようになっています。ルポールに来て色々な人と関わったことも自分にとって良かったことです。ルポールに来るまで人との関わり方が良くわからなかったけど、ルポールでトライ&エラーする事で、出来るようになっていったように思います。人の良いところを見て吸収することができるので、ルポールに人がたくさんいる事がありがたいと思っています。(自立援助ホームルポール入居者)



ルポール・ルファールでは季節のイベントや誕生日などを大事にし、みんなで食卓を囲むようにしています。



スタジオ plus+では土曜日にソーシャルスキルトレーニング(SST)を行い、子どもたちは災害時の備えや交通安全ルールなど生活に関連することを学んでいます。



2020年3月、代表の不破が沖縄へ移住。地方在住でリモートワークをする職員も増え、働き方も多様になりました。



法人設立
10周年!



→ これまでの10年、 そしてこれからの10年へ

これまでの10年、関わってきた方々

ダイバーシティ工房は設立から10年間、様々な背景をもつ0歳～20歳の子どもや大人、家庭と出会い、出会った方々が安心して何かあったときにいつでも相談できるような場所としてあり続けてきました。創立以来、関わった方々の人数は4,000名以上になります。



*スタジオplus+, プラット、
自在塾、読み書き教室

*無料学習教室、食料郵送支援、
地域学習支援、コミュニティカフェ

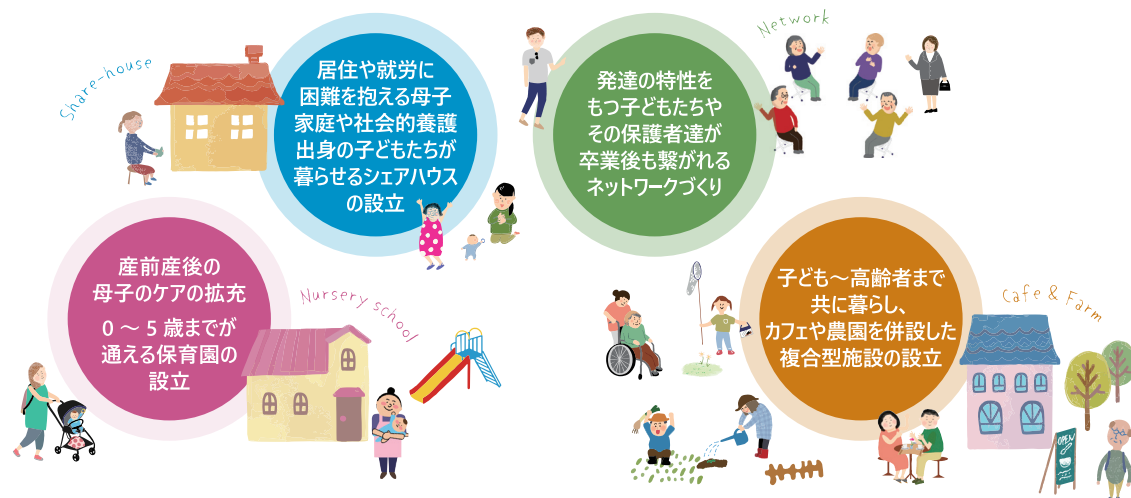
私たちが描く新たな10年のビジョン

ダイバーシティ工房はこれからの10年も1人ひとりの暮らしの中で、活動を通して出会った方も職員も自分らしくいられる場所を目指して、引き続き活動を続けていきます。

にじいろおうちえん、そらいろおうちえんの保育園は現在0～2歳児までしか受け入れができません。今後5歳までの一貫した保育を行える場所となることを目指していきます。
また産前産後の母子の孤立を予防するため、産後ケアにも注力していきます。

自立援助ホーム・ルポールやシェルター・ルファールを卒業する若年女性の居場所はまだまだ限られ、再び居場所や職を失くすなど負のサイクルに陥ってしまう方もいます。子どもを産んでからも戻ってこられる母子ハウスや、シェアハウスの設立へも動いていきます。

さらに、地域の学び舎プラットを発展させたような、カフェを併設した子どもや高齢者まで共に暮らすことができる複合型施設の設立、全国への拠点展開、発達障害等をもつ子どもたちの海外への教育留学などもビジョンとして描いています。「支援を受ける側」「支援をする側」の関係ではなく、お互いが繋がりがながらワクワクできる暮らしづくりを目指していきます。



支援者の声

中核地域生活支援センターは千葉県が実施する相談支援事業で、対象を限定していないがゆえに、十分に社会化されていない課題をキャッチする役割を担ってきました。ダイバーシティ工房が設立された頃は、家族を頼れない子どもたち、若者たちの孤立が切実な課題として意識されてきた時期でした。

ダイバーシティ工房は家庭でも学校でもない地域のなかで、学習や食事、遊びを通じて子どもたちがさまざまな大人と出会う、そんな時間と場所を創り出してきました。その後、20代前半までを支える自立援助ホームやシェルターなど暮らしを支える取り組みに発展させ、がじゅまるにとっては常に心強い連携先でした。民間助成金を積極的に活用し、行政の手の届いていない課題に先駆的に取り組む姿勢に敬意を表します。

子どもたちの孤立は深刻さを増し、ダイバーシティ工房が見据える未来はまだずっと先にあります。培ってきたネットワークを活かし、確かな歩みの積み重ねを期待しています。

(朝比奈ミカ様/千葉県中核地域生活支援センター がじゅまる センター長)

週に1回プラットでボランティアとして子どもたちの勉強や遊びに参加させていただいて、ちょうど1年になります。13年前にドイツから日本に来て以来、日本語教室を始めさまざまなボランティア活動にお世話になって来ました。これから少しでもいただいた恵みを返せればと思いましたが、プラットでは逆に子どもたちに元気をもらったり、日本語などを教えてもらったりしてお世話になってばかりです。プラットに入るたびに、今週も会えてよかったという気持ちが湧いてきます。本当に感謝しています。毎週頑張っている子どもたちやスタッフは励みや刺激になり、おかげで視野が広がります。

背景や年齢が違う人とうまく付き合うのは簡単ではないからこそ、プラットに受け入れていただいていることに感謝でいっぱいです。これからも、大変なことも楽しいことも、失敗も成功も一緒に笑いながら体験させてください。

(フランツ・ヴァイタル様/プラット学習教室ボランティア)

困難な状況にある人達が少しでも夢や希望を持って生きていけるよう、支援している人達を支援している、という気持ちでいます。今、私は自分自身の生活をまわしていただくだけでやっとなです。とてもじゃないですが、他人の支援など出来ません。なので、ささやかですが食材提供したりして、美味しくご飯を食べて楽しい食事のひとときがもてればそれでいいと感じています。僅かな金額ですが寄付しているのは、この事業は長期継続していかないと意味が無いと思っているからです。その為には、スタッフの方々のやりがいや責任感だけではもたない、やはり資金が絶対必要だと思っています。

逆境こそ人が強くします。なんとしてもその困難な状況を乗り越えて、生きて生き抜いていって欲しいです。人は希望があるからこそ生きて行けるのです。夢や希望を見いだせるような取り組みを応援するため、これからも支援し続けます。

(Y・O様/マンスリーサポーター)

ダイバーシティ工房と一緒に、子どもや家庭が暮らしやすい地域づくりを目指していきませんか？

マンスリーサポーターとして、私たちと一緒に地域の子どもたちを支えていただける方を募集しています！無料学習教室やシェルターの運営、LINE相談事業、食料支援など、ダイバーシティ工房が行う各種事業が今後も継続的に行われるよう、ぜひ応援をよろしくお願ひいたします。

※市川市にお住まいの方は税額控除が受けられます。

お問合せ先：support@diversitykobo.org

詳細はこちらから
ご覧ください

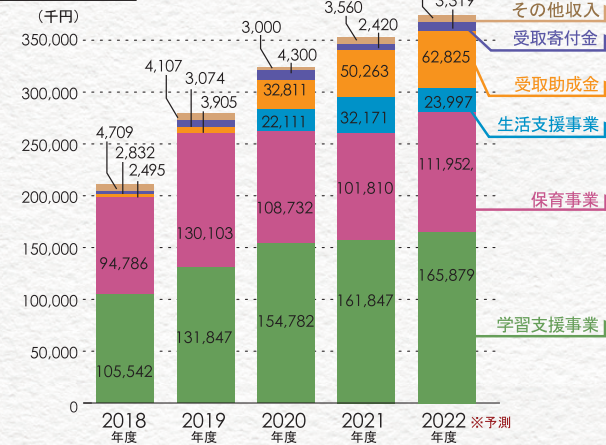




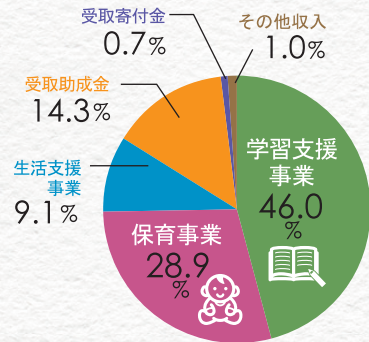
2021年度 会計報告

2021年度は昨年度に引き続きコロナ禍の影響で減収が予想されましたが、安定した放課後等デイサービス運営により増収を実現することができました。また、専任のファンドレイザーの配置により大口の助成金の獲得ができ、収入の14%を占めるほどになりました。この大口助成金を財源としてLINE相談、シェルターや無料学習教室の継続ができた他、困難な状況に置かれている子どもや家庭を早期発見するための地域連携事業も新たに開始することができた年でした。助成金によって開始した事業を継続させるためには、寄付金による収入をいかに増やしていくかが課題となっています。2022年度も制度事業と制度外事業を組み合わせながら、子どもや家庭を包括的に支援していくことができる組織を目指します。

収入推移



2021年度収入比率



活動計算書・賃借対照表・財産目録を含む決算報告書はダイバーシティ工房HPでご覧いただけます。

助成団体（五十音順 敬称略）

- 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 休眠預金等活用法に基づく新型コロナウイルス対応緊急支援助成
- 公益財団法人ちばのWA地域づくり基金 休眠預金 新型コロナウイルス対応緊急支援助成
- 公益財団法人つなぐいのち基金 つなぐ助成
- 公益社団法人ユニバーサル志縁センター 休眠預金活用新型コロナウイルス対応緊急支援助成
- 厚生労働省 新型コロナウイルス感染症に対応した自殺防止対策事業
- ゴールドマン・サックス地域協働型子ども包括支援基金 地域協働型子ども包括支援構築・組織基盤強化助成
- 生命保険協会 子育てと仕事の両立支援に対する助成活動
- Yahoo 基金 2021年度 コロナ禍における困窮者支援活動助成

企業寄付・個人寄付 ●有限会社新屋様 ●鈴木徹様 マンスリーサポーター 43名（2022年3月時点）



特定非営利活動法人
ダイバーシティ工房

設立 1976年(NPO法人化2012年) 代表理事 不破牧子
 職員数 126名(2022年4月現在/インターン・ボランティア含む)
 Webサイト <https://www.diversitykobo.org>
 Facebook <https://www.facebook.com/diversity.cobo>
 所在地 〒272-0034 千葉県市川市市川 1-9-1 AKIOビル4階
 ☎047-711-1136 / info@diversitykobo.org

運営施設一覧

地域の学び舎プラット・自在塾 千葉県市川市平田 2-8-1 ☎047-718-2330 / スタジオ plus+ 市川駅前教室 千葉県市川市市川 1-11-8 ルミノッソ市川 4階 ☎047-316-0569 / スタジオ plus+ 市川中央教室 千葉県市川市市川 1-9-1 AKIOビル4階 ☎047-711-1139 / スタジオ plus+ 本八幡教室 千葉県市川市八幡 3-8-19 第9モリビル3階 ☎047-316-1366 / スタジオ plus+ 瑞江教室 東京都江戸川区東瑞江 3-41-6 UHRビル 201号 ☎03-6638-8136 / スタジオ plus+ 船橋教室 千葉県船橋市宮本 1-21-8 ウィン船橋103・104号室 ☎047-411-7798 / にじいろおうちえん 千葉県市川市市川 1-12-23 メゾンドロワール 202号室 ☎047-712-5022 / そらいろおうちえん 千葉県市川市市川 1-12-23 メゾンドロワール 101号室 ☎047-712-5022 / 自立援助ホーム Le Port 千葉県市川市(住所非公開) / シェルター Le Phare 千葉県市川市(住所非公開) / LINE相談むすびめ オンライン